

下野新聞

2013年(平成25年)4月23日(火曜日)

道の駅を拠点に 「農援団」活動を

宇都宮 若手農業者ら会社設立

「農援団」は2011年、販路や収益拡大を目的として設立。約1年半の活動で課題となった拠点の確保や営業・管理機能を強化するため、同村などを運営する「ファーマーズ・フォレスト」(松本謙社長)と協力して18日、会社を立ち上げた。

農業生産者や専門家をネットワーク化し、担い手を支援する「株式会社農援団」(宇都宮市新里町、亀田泰志社長)の設立発表会が22日、宇都宮市のろまんちっく村で開かれた。

この日の発表会は、旧農援団メンバーをはじめ、生産者ら約80人が出席。同村を拠点に農援団の農産物や加工品の販売、勉強会、定例会などを開催することなどが報告された。

若手農業生産者グループ

亀田社長は「農業



者、商工業者、専門家など、さまざまなネットワークを駆使して、みなさんの夢や目標を実現するインフラを整備していきたい」と話していた。

農援団の事業について説明する亀田社長。22日午後、宇都宮市新里町

平成25年(2013年)4月23日 火曜日

道の駅と若手農業者団体

共同で農援団設立

農業の担い手支援や6次

産業化を推進するため、宇都宮市新里町内の「道の駅うつのみやろまんちっく村」の運営会社と県内の若手農家団体が共同で農業支援事業会社「農援団」を設立し、22日に同道の駅で設立発表会が開かれた。写真。

農援団は、佐野市の亀田泰志さん(41)が団長となり、2年前から約35軒の農家と任意団体として活動。

販売企画会社を設立して新商品の開発などに取り組んできたが、商品販売の拠点と事務局機能の強化を求めて、道の駅を運営する「ファーマーズ・フォレスト」と資本提携し、株式会社となった。道の駅と一体となった農家支援事業は全国的

にも珍しいという。

今後は、農援団が作った商品が道の駅で販売されるようになり、加工品の開発や農業の教育研修事業も進めていくという。亀田さんは「ろまんちっく村を中心にネットワークをつくり、栃木だけでなく全国に新しい地域の形を発信したい」と話している。

